

横浜市立新羽小学校 令和3年度 体育・健康プラン

～体育・健康に関する指導の全体計画～

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
わたしがかがやく みんながかがやく 新羽の子ども	主体的に学び生きる力

(2) 中期取組目標

中期取組目標
○子ども一人ひとりを大切にしながら、まちとともに歩む学校にします。 ・子どもたちが分かりやすい教科の学習、探究心を生かした総合的な学習のために、指導の工夫、改善、充実に努めます。 ・人間関係を深めるなかよし交流、音楽あふれる学校教育活動を通して、よさや違いを認め合える指導を行います。 ・小中9年間の見通しのもと、新羽中学校との連携をさらに深め、児童指導の充実、学力向上に努めます。 ・教育活動に保護者、地域、関係機関等の力を取り入れ、学校運営協議会と共に開かれた学校の推進に努めます。

(3) 体育・健康に関する指導の重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①目標をもって運動に取り組める内容の工夫と体育科の教育課程を体育館・校庭を連続して使用できるように編成することで、体力向上を図る。 ②学校保健委員会で食育を取り上げ、生涯にわたって健康な生活が送れるよう基本的な知識・習慣を身につける。
担当	体育部

2 体育・健康に関する実態把握

(1) 体育・健康に関する実態

- ・新体力テストの結果は、例年横浜市平均よりも低い。しかし、体育の授業を楽しみにしている、好きであると答える児童は、非常に多い。休み時間に外で思い切り体を動かす児童もいるが、気分転換に外に出て少し体を伸ばす程度の児童も多い。地域のスポーツクラブ（野球、バスケットボール、空手、バレエ、水泳）に所属する児童や、放課後に体を動かす児童は年々少なくなっている。運動をすることで体力をつけたり、健康を維持したりしようとする児童が減っている。
- ・保健室の利用状況をみると、けがは中休みに多く発生し、場所は校庭や教室が多い。内科主訴による来室は、発熱や気分不良による来室が令和2年度では減少したが、腹痛による来室が目立った。
- ・手洗いや毎日の健康観察などの感染症対策の励行により、年間を通して病欠者の減少、例年流行していたインフルエンザの感染者がみられなかった。
- ・給食の残量が多く、市のワースト10に入っている。学校保健委員会や委員会活動で食育に取り組むことで、少しずつ意識が改善されてきている。

(2) 体力の概要と要因の分析

例年の新体力テストの結果が、市平均を下回っていることから、体を継続的に動かす習慣が身につけていないことがわかる。また、運動量の減少が、給食の残量にも現れているのではないかと考えられるところがある。休み時間の過ごし方、体育の授業内容、学校保健委員会の内容を工夫するとともに、家庭と連携して生活習慣の見直しを図り必要を感じる。体力向上を目指す取組、食の大切さを伝える取組を設定することが望ましいと考える。

3 体育・健康に関する具体的取組

教科

《体育科・保健体育科での取組》

- ・体育科では、1単位時間の中で、運動量の確保を重視した展開をする。体づくり運動領域で、低・中学年では多様な動きをつくる運動（遊び）、高学年では体力を高める運動を通して日常化を図り、体力の向上を目指す。
- ・保健では、運動による心の成長や食事、睡眠などの生活習慣を整えることの大切さを理解できる授業づくりをする。

《他教科での取組》

- ・生活科、家庭科では、食教育との関連を図る。
- ・生活科、理科では、生命の尊さを指導する。

特別活動・総合的な学習の時間

《委員会活動での取組》

- ・衛生委員会では、よりよい生活習慣を身に付けるために、生活習慣改善の呼びかけを行う。
- ・運動委員会では、年間を通して縄跳び運動に親しみ、楽しんで取り組めるように集会の企画・運営をする。また、「体力アップ大作戦」を行い、全校児童が休み時間に、運動遊びに取り組むことができるようにする。

《学級での取組》

- ・委員会で提案された取組やクラスで決めた活動を協力して行う。クラスの実態に合わせて遊びのルールを考えたり、あえて負荷をかけた遊びを工夫したりする。意欲的に取り組む態度、相互理解を育む。

課外活動

- ・学校保健委員会で、食育に関係する内容を取り扱い、各クラスの取組諸状況、成果を報告し合う。
- ・水泳交流会、球技交流会に向けた練習を推進する。
- ・家庭と連携し「早寝・早起き」「朝食の励行」の啓発を継続して行うとともに、運動習慣の意識の向上を図る。

令和3年度 新羽小学校 体力向上1校1実践運動

- 《名称》 体力アップ大作戦
《ねらい》 巧みな動き、跳力、持続する力の向上
《内容》
- ・なわとび週間を年に数回設定し、短縄や長縄で学級や異学年交流で取り組んだ成果を発表したり、掲示したりする。
 - ・児童の運動委員会を中心に、巧みな動き、跳力、持続する力につながる運動遊びを紹介し、休み時間に取り組めるようにする。

●指 標：

- ①生活実態調査「運動やスポーツの実施状況」「1日の運動スポーツの実施時間」からの現状把握・変容の検証
- ②体力アップ大作戦における記録の変容
- ③休み時間の短縄・長縄への参加人数の変容

《その他》

- ・体育科学習の中でも跳躍力や持久力の向上に繋がる動きを丁寧に扱い、スモールステップの指導を徹底する。
- ・準備運動や慣れの運動で、体力を高めるための組み合わせ運動を積極的に取り入れる。